

平成27年度 第2回香美町総合教育会議 議事録

【日 時】

平成28年2月19日（金）午後4時00分開会

【場 所】

香美町役場2階第2会議室（香美町香住区香住870番地の1）

【出席者】

町 長 浜上 勇人
教育長 朝倉 寿文
教育委員 山崎 つるみ
教育委員 安田 優二
教育委員 野村 道彦
教育委員 吉田 加代子

事務局	教育総務課長	西村 吉弘
	こども教育課長	磯田 英昭
	生涯学習課長	岸本 典明
	教育企画研修室長	水垣 清和
	こども教育課副課長	中村 和弘
	教育総務課主査	大城 優
	教育総務課主査	西本 英樹

【欠席者】

なし

【協議事項】

- (1) 第2次香美町総合計画について
- (2) 香美町総合戦略について
- (3) その他

【議事要旨】

1 開会

(事務局)

ただいまから平成27年度第2回香美町総合教育会議を開催いたします。よろしく願いいたします。それでは、初めに浜上町長からあいさつをいただきます。

2 あいさつ

(浜上町長)

本年度第2回目の総合教育会議を開催いたしましたところ、教育委員の皆さんには大変お忙しい中ご参集を賜りまして厚くお礼を申し上げたいと思います。

今、2月25日に開会をいたします議会に向けて議会運営委員会を開いていただいて議案書を送付したところです。平成27年度の一般会計の総額は、144億円程度でしたが、平成28年度は135億円台と少し縮んだ予算になっております。

近年、大きく取り組んでいます学校の耐震化が一定の目途がついたことと、地域振興基金に5億円を積むことで予算規模が約9億円減少しています。新しい取組も含めて、議会に審議をいただいて平成28年度の町政運営を行ってまいりたいと思っております。

第2回目ですけれども、総合計画と総合戦略に関わるものを説明させていただいた後にさまざまな意見を拝聴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

ここで、新しく教育委員に就任していただいております3名の委員に自己紹介をお願いしたいと思います。

(安田委員、野村委員、吉田委員) 自己紹介

(事務局)

ありがとうございました。

今回、総合教育会議に初めて出席される教育委員がおられますので、総合教育

会議の概要と第1回目の協議内容について説明させていただきます。

この総合教育会議につきましては、平成27年4月1日に施行されました「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に規定されており、首長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくため、協議・調整する場として設置されました。

概要について、別添のパンフレットをご覧ください。

会議は町長と教育委員会で構成され、町長が招集し、協議・調整する事項については、教育行政の大綱の策定、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置についてなどとなっております。

第1回目は平成27年5月26日に開催し、総合教育会議の運営に関して必要な事項について、お手元の「香美町総合教育会議運営要領」のとおり定めております。

また、教育行政の大綱につきましては、平成23年12月に策定の「香美町教育振興基本計画」の中で教育の目標や施策の根本となる方針を定めているため、本計画を大綱に代えることとしております。以上が総合教育会議の概要でございます。

それでは、協議事項に入りたいと思います。ここからは、浜上町長に進行をお願いします。

3 協議事項

(1) 第2次香美町総合計画について

(2) 香美町総合戦略について

(浜上町長)

それでは、昨年策定しました第2次香美町総合計画及び香美町総合戦略について関連しますので、まとめて説明させていただきます。

第2次香美町総合計画及び香美町総合戦略について説明

ただいまの香美町の総合計画と総合戦略の教育に関する事項について、説明を

させていただきましたが、皆さまの方で何かご意見ありましたらよろしくお願
いたします。

<意見等なし>

(浜上町長)

人口ビジョンで説明させていただきました社会保障・人口問題研究所の人口推
計について、国勢調査の速報値が発表になりました。香美町は、残念ながら大き
く人口が減りまして18,076人という速報値がでました。これは合併したときに2
万3千人近くあったものが、ここ10年間で約4千人近く減ったということにな
ります。小代区では、2千人をきるような状況になりました。確定値は6月か7
月頃になると思います。我々が小学生、中学生のときには旧香住町だけで1万6
千人ぐらいありましたので、相当数の減少です。県下で最大の減少率になったら、
どうしようかと思っておりましたが、佐用町が1番でした。佐用町、上郡町、養父
市、その次が香美町です。前回の国勢調査では、新温泉町が県下で減少率が1番
でしたが、今回は7.41%の減少で、同レベルですが香美町より良かったです。
新温泉町は1万5千人をきってしまいましたし、養父市も合併当時からかなり減
ってきています。

国勢調査の人口が交付税の対象になります。人口の減少率が交付税に反映され、
平成33年からの合併算定替えて一本算定になると、年間に2億円か3億円ぐら
いの交付税の減少になります。

近年、学校の耐震化に使ってきた約60億円のお金が5、6年後の財政指標に
必ず現れてきます。交付税の減少と合わせて二重の財政負担になってきますので、
今後のことを考えながら財政運営をしていかなければならないと思っています。

ただ、藤原町政時代には財政調整基金を7億円という目標にしておりましたが、
現在、財政調整基金だけで約28億円に増やしております。また、合併特例債の
元利償還金の7割について交付税に算入していただける地域振興基金というもの
もあります。平成27年度末に地域振興基金に5億円積みましたら、満額の16
億円で積み増しができますので、これから返済しながら、地域振興基金を使える
ようにしていきたいという思いがあります。

すべての基金を足しますと総額約60億円になります。合併当初からみるとかなり貯まったと思いますが、県下ではまだ下位の方です。子どもたちが少なくなる一方で、地方交付税の総額が減ってきますので、将来に向けてどうしていくか、非常に綱渡りみたいになります。

2月18日の新聞に養父市の来年度の予算が掲載されていました。第二子から給食費を半額にするということや、将来市内に定住していただける方に高専や大学の奨学金を免除するということが載っていました。第二子からの給食費の半額にかかる費用は、1500万円ほどだったと思います。ただ、人口が減っていく中で、何でも金銭的な負担だけを町が受け持っているのかどうかという議論もありますし、大変難しいところだと思います。

昨日発表の国勢調査の速報値はそういうところですよ。香美町だけでなく、いつも但馬地域全域と多可町や佐用、上郡などは財政指標の人口減少率や経済的な余裕が下位です。一方で播磨町、猪名川町、太子町は人口も増えておりますし、社会保障・人口問題研究所のデータでも太子町は、県下で人口減少率が一番少ないと考えられていて、40年50年先でも現在の88%ぐらいの人口が残る推計がでております。要因は、やはり姫路の隣町で姫路まで行くと快速電車で京阪神まで1時間圏内で通勤できるということです。町内に何かがあるということではなく、住宅地も比較的安くて神戸や大阪まで通勤範囲内というベッドタウンとしての町ということがあります。

総合計画や総合戦略について簡単な資料ですが、教育関係では平成28年度にいろいろな取組を計画しております。まず、若い世代の支援の結婚、出産については、健康課に平成28年度から子育て世代包括支援センターを設置することになりました。国の施策ですので、経済的な負担も町にはありません。役場3階の和室を予定しており、健康課の一部署として子育て世代の相談センターを設置させていただきます。

それから予算を伴うものではありませんが、教育委員会と企画課で対応していただいて講演会などを予定しております。衆議院議員の谷先生の方から取りつなぎをいただいて、昨年秋から日本体育大学と香美町との連携協定への調印を進めてまいりました。兵庫県内には、日本体育大学との連携協定を結んだ自治体はありません。松浪健四郎先生が日本体育大学の理事長をされていて、谷先生と松

浪先生との個人的なつながりの中で香美町との連携協定の声をいただきました。この3月28日に日本体育大学から松浪理事長以下4名の方に来ていただいて役場で調印式をさせていただきたいと思います。

折しも、東京オリンピックの事前キャンプの対応として、香美町は小代区でアーチェリー競技の事前キャンプ招致の推進委員会を立ち上げております。日本体育大学のOBには山本先生はじめ、アーチェリー関係の先生もおられますので、うまく連携できたらという思いもあります。また、日本体育大学の学生がわれわれの町で合宿をしていただいたり、その機会には香美町の児童生徒に対する体育指導や、オリンピックに出場されたOBの方々に香美町で講演をしていただいたり、あるいは体育に優れた本町出身の児童生徒が将来的に推薦入学で日本体育大学に入るといのように、いろいろな事業が実施できたらと思っております。

総合計画と総合戦略について、委員の皆さんの方で何かございませんでしょうか。

<意見等なし>

(浜上町長)

この計画通りには進まないのも現状です。ただ、人口ビジョンを含めて二つの計画の中の課題には、平成28年度からの町の施策の考え方、従来政策していることと、新しく立ち上げる施策も、どの基本目標に沿っているか、わかりやすく分類して議会にも資料を提案しております。

わずかなことですが、妊婦検診の回数や費用について少し拡充するなど、従来からの継続的ないろいろな問題について、平成28年度に部分的にできるものを提案しております。

施策の中でも他地域からの移住定住というものが、他の市町村の取組に比べてやや劣っています。先日、鳥取県東部の市町村と一緒に東京で移住定住相談会に参加させていただき、2、3日前の大阪での第2弾には、副町長に参加させていただきました。これは他地域との連携ということが、総合戦略の4つの基本目標の最後の部分で出てきます。鳥取県東部との関係については、旧美方町が鳥取市、岩美町、八頭町、若桜町と取り組んできたコリドー21という団体があります。

現在、香美町としてコリドー21に関わっておりますので、移住定住相談会にも鳥取県東部と仲間に入れていただいております。その他に但馬地域全域で、ジオパークの関係で京都府京丹後市から鳥取県鳥取市までの日本海側の沿岸の自治体が一緒に行動もしております。また、豊岡市を中核とした地域間連携、特に豊岡病院の周産期医療センターは、但馬地域全体として取り組んだ施設です。産科の先生も充実しておりますので、少し難しい出産にも対応していただけます。これからも広域的な連携で進めていきたいと思っております。

教育委員会を取り巻く環境は、総合教育会議もありますし、平成27年度から立ち上げました「いじめ問題対策連絡協議会」も段階的に町長が招集するという事で、これから首長が教育委員会に関わる頻度が多くなると思いますが、決して首長が教育部門に手を突っ込むとか、首を突っ込むという関係ではなく、今までから独立した教育委員会の所管事務を含めて、町の役場の体制と教育委員会の体制の中で、より子どもたちや児童生徒の環境あるいは、生涯学習の分野で一緒になって、連携を取りながら少しでも教育行政を前に進めていくという認識で思っております。教育委員の皆様には大変お世話になりますがよろしく願いたします。

総合計画の抜粋の中に子育て支援の関係で、掲載している子育て世代包括支援センターを平成28年度に設置をさせていただきます。今までから問題になっておりました病児保育の関係や子育て団体の活動支援などに数値的な目標を掲げておりますので、一步ずつ実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。

委員さん方も十分ご存じだと思いますが、平成23年度の諮問から数年間かけて「少子化の進行を背景とした教育環境のあり方」について、平成26年度に最終答申をいただきました。平成26年度には方向性を定めて、今後5年間は学校の統合は予定をしていない、ただし、5年間を待たずして、その地域や学校関係者、あるいは保護者から問題意識が提案されて学校統合への問題が生じたときには、学校毎に問題を検討していくという事を町として姿勢を出しておりますので、新しい委員さんもよろしく願いたします。

教育委員さんの方で総合計画と総合戦略のことについて、何かご意見はございませんでしょうか。

(朝倉教育長)

人口が減少しつつある中で、何とか現状維持、少しでも減るのを防ぎたいという中で、仕事があるということが人口を呼び込む、減らさない力になると思います。仕事をいかに増やすのかが、総合戦略の中で1つの課題ではないか。

教育の中では、ふるさと教育で地域の人と交わって、自分たちの生まれ育ったところで住みたいという気持ちを育てたいということで私たちも力を入れています。

しかし、交通のアクセスで大都市と結べるということが大事なことだと思います。豊岡市との利便性、また鳥取市との交通アクセスもどんどん良くなれば、職場として通える範囲になると思いますが、今後の見通しはどうか。

(浜上町長)

道路事情が良くなってきますと遠距離との交流ができます。鳥取方面も3月に駟馳山バイパスの延長で岩美道路との2キロぐらいが延長になりますし、浜坂道路は平成28年度の予算がたくさんつきましたので当初の予定通り供用開始なると思います。今、鳥取空港まで一時間ですが、浜坂から鳥取までの道路が供用開始になり50分程度になれば、香美町に在住の高校生も車の免許があれば、鳥取大学に下宿せずに自宅から通えるようになると思います。

そういうことになれば地域にも活力もでますし、鳥取県には県庁であったり、市役所であったり、大企業の鳥取支社もたくさんありますので、鳥取市内を働く職場として選ぶ基準となりますと少しひらけてくると思います。

北近畿豊岡自動車道も、平成28年度には日高まで供用開始を目指して工事が進捗しております。この道路ができますと香住に住む住民は、氷ノ山インターまで出ずにコウノトリ但馬空港を越えて日高から乗れるようになると思います。

道路事情によって行動範囲が広まるということは、地域に定着していただける方々も増えますが、逆に人口が流出する懸念もあります。

町内への企業誘致は、気候とか風土もありますのでなかなか難しいと思っています。今どこの町も人口の移住定住に力を入れています。鳥取県の岩美町は住んでみたい町のナンバー1になったと言っていました。実際に移住定住にどこまで役立っているのか、まだ検証ができていないようですが、都会の人に1か月ほど

岩美町にきていただいて実際に住んでもらうためのお試し住宅などを用意しているようです。

香美町は移住定住について、少し遅れているような感じがしますので、平成28年度は住宅リフォーム助成制度の内容を少し移住定住にシフトさせていただいて、町外から空き家を求めて来ていただく方々に、少額ですがインセンティブを付けて利用していただけるような事業を計画しました。

他にございませんか。ないようでしたら、その他に入らせていただきたいと思います。

(3) その他

(浜上町長)

つづきまして、教育行政に関しまして意見交換の時間をとらせていただきたいと思います。

委員の皆さんの方で何かございましたらよろしく願いいたします。

(山崎委員)

青少年の育成で地域の果たす役割はますます重要となっておりますが、地域の皆さんが元気だと子どもたちもより元気になれると思っています。

福祉課等では、中高年に向けた健康運動教室等を活発に実施しておられます。教育委員会としても社会教育活動をさらに充実していただき、地域の人たちが元気になれる活動をすすめていただきたいと思います。

子どもたちだけにかんばれというのではなく、周囲の大人たちも元気になればいいと思っています。

(浜上町長)

今、山崎委員から出していただきました関係について、他の委員から何かございませんか。

生涯学習の分野ですね。いろいろと私にも個人的に注文される方もおられて、例えば公民館活動や陶芸など各地区公民館で行っている事業に、もう少し町も力を入れて多く参加してもらえるような体制がつかれないかということ。

やりがいがあって年配になられてもいろいろな活動をされている方は、そういう部分で識見も広がるし、地域の子どもたちに指導だとか、地域での個人的な活動が活発になるような思いもします。

なかなか具体的な予算付けになりませんが、私も重要性を認識しております。安田委員、何かありませんか。

(安田委員)

今、社会的に問題になっている「いじめ」のことで、町で決められたことがあると聞いています。ニュースを聞いていると、どことも事件が起きてからの話が多く、とても苦しい思いをしている子どもたちがいます。

このたび、「教育の重点」に個々を大事にするという中から、ほめる教育を重視し、一人一人をよく観察するということができています。教員の子どもをみる力をどのように育成していくのかが、かなり大事だなと捉えています。

いじめる側にも原因があるけれども、いじめられて「嫌だ」という意思表示ができるような強い人間に後押しできる方向性があればと思っております。

やはり、嫌なことを嫌だと言えないことが、すごく深刻な状態になるのではないかと思います。嫌なことを「嫌だ」と言える後押しができる方向性があればと、いじめのことで思いました。

(浜上町長)

続けて野村委員お願いします。

(野村委員)

皆さんで一生懸命考えられて、まとめられた総合計画や総合戦略を、ぜひ推進していただきたいと思います。

特に、村岡や小代は若い人が非常に少ない。香住の中は人がいるように感じています。子どもの数もどんどん減ってきて、村岡や小代は本当に少ない状況です。いかに若い人に定住してもらうか、問題が大きすぎて私たちのような知恵では解決できないとは思いますが、ぜひ住んでみたいと思えるような、農業や畜産や漁業の担い手を含めて進めていただけたらと思います。

子どもがここで育たないと都会で育った子どもが、こちらに帰ってくることはまずないような気がします。周りの家を見ても進学した先で就職をして、家にはお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんしかいない家が本当に多くて、もう10年、20年したら多分空き家になっていく家がとても多いです。

何とか進学しても、こちらにまた戻って来られるような状況を作っていただけのような施策をしていただけたらと思います。

少なくなった子どもに学校間スーパー連携チャレンジプランなど、いろいろな取組で本当によくやられていると思います。子どもはやはり集団で育つということがあります。集団の機会は簡単に増やしにくいかもしれませんが、チャレンジプラン等を後押ししていただけたらと思います。一人二人、三人四人では、社会性も育まれていかないですし、集団になるような取組を推進して、町として支援をしていただけたらと思います。

(浜上町長)

続けて吉田委員をお願いします。

(吉田委員)

香美町は高齢者が多いということで、高齢者に対して行事や機会がたくさんあり、元気な高齢者をたくさん目にします。例えば、おじろ健康公園でグラウンドゴルフやいこいの里でいろいろとしておられます。そのことから考えると小さい子どもたちが、十分に体を動かす、何かをしながら育っていく場所や環境が少ないと思います。人数がとても少ないですが、子どもたちが外で元気よく遊べる遊具のある公園、期待をいっぱい与えてもらえる環境になっていないと思います。

学校施設には多少ありますが、目の前で子育てができる環境から見ると、小代は公園やみんなが集まって来て楽しく遊べるような遊具のあるところがないです。小さいころからいっぱい体験ができる取組を、町をあげてやっていただけたらと思います。

小学校に入って来てから、運動の能力をみると腕の力が弱くて体を支えることができなかったり、柔軟性に欠けていたりします。育ってくる環境の中でいっぱい体を使ったという機会が少ないのではないかと思います。いろいろと工夫すれ

ばできるかもしれないけれども、子育ての面からもう少し機会や環境を与えてもらえたらと思います。そうなれば、学校に来てからも頑張れるし、この地域を楽しく感じて子どもたちが過ごしてくれるのではないかと思います。

(浜上町長)

昨年の秋ごろに小代の子育て世代のお母さんから、面談の申し込みがありました。お母さん方の要請もあって、人数が少ないながらも小代じゅうから来て遊べるような遊具をいこいの里に作る予算を平成28年度提案します。

町長室はオープンにしておりますので、結構来られます。村岡や香住の子育て支援センターのことで要望に来られるようです。子育て世代の方々もいろいろな注文をされます。有料であるものを無料にしてくれとか、町から給付するものは現金で多くと直接言われます。

養父市は第二子から給食費を半額にするようですが、香美町でも今の財政状況でそれは決してできないことはないと思います。しかし、学校給食は保護者からいただいた給食費で、すべて賄えているわけではないと保護者の皆さんにそれぞれの場面でお話しさせていただいています。給食センターの施設費や人件費、輸送費などの維持管理などの運営費はすべて町が支出しています。給食費は、皆さんから食材に係る材料費だけをいただいています。

今後もずっと続けていけるという財政運営ができる見込みがあれば、約8千万円の給食費を無料にしようと思えばできないこともありませんが、財政が楽な間だけしますということは政策としては間違っていると思いますので、なかなかそこまでは踏み切れません。

保護者の負担はいただいています、その分、ふるさとの食材を使った日本一のふるさと給食ということで、できるだけ良いもの、できるだけ地元のものを使う方向を打ち出しております。

私も給食に一月に一回程度、順番に小中学校に行かせてもらっています。当初は子どもたちも緊張していましたが、二巡目、三巡目になりますとあまり存在感もありません。ただ給食を食べに行くだけですが、学校の雰囲気それぞれ違いますし、低学年、中学年、高学年あるいは中学校ぐらいになると対応が違います。元気が無いというより落ち着いている学校、何かたずねたいことがあるとみ

んなが「はい！はい！はい！」と元気がいい学校があります。

15分ほど早めに行って校長先生とお話しすると一番気になるのが、学校の木質化ができていて学校と耐震化だけにとどまった学校です。長井小学校は耐震化したものの最低限の改修でしたので、校長室もシミだらけですし、学校の廊下も古いままです。子どもたちは少ないながらも元気にやっています。新築の香住小学校は木質化ができておりますし、機能的にも新しいので何となく温かい雰囲気が見えます。お金が無いからできない事情もありますが、同じ香美町の中で育つ小学校の教育環境が長井小学校と香住小学校では、雰囲気が全然違うように感じます。今後、耐震化が100%になってからの課題とっております。

では、以上で協議事項を終了とさせていただきます、あとは事務局にお返ししたいと思います。

4 閉会

(事務局)

約1時間でしたが、ご協議ありがとうございました。次の会議につきましては、平成28年度に1~2回の開催を予定しております。日程につきましては、再度調整をさせていただいて開催をしたいと思っております。

それでは、本日の総合教育会議を閉会といたします。本日はどうもありがとうございました。